

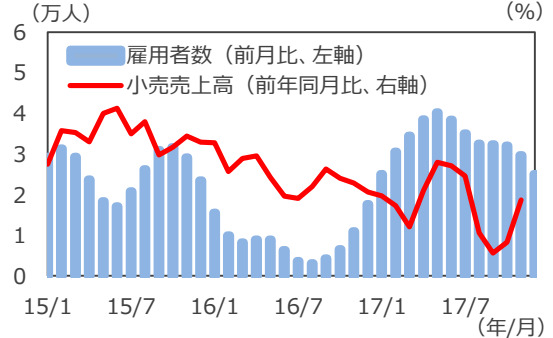
今日のトピック 雇用の拡大が続く豪州経済（2018年1月）

堅調な景気が豪ドルを下支えしよう

ポイント1 雇用は増勢を維持 個人消費を下支えしよう

- 2017年12月の雇用者数は、前月比3.5万人の増加となりました。月毎の変動を均したトレンド値は、同2.5万人増となり、失業率を引き下げるのに必要とされる雇用増加数（過去5年間の平均で月間1.5万人程度）を上回りました。企業の景況感指数が高い水準にあること等から、雇用は今後も増勢を維持すると予想されます。一方、失業率は11月の5.4%から5.5%に上昇しましたが、主因は労働市場から退場していた人が復帰してきた（職探しを再開した）ことにあります。労働市場の悪化を示すものではありません。
- 労働市場の改善や金利の低位安定等から、個人消費も徐々に上向きつつあります。小売売上高を見ると、17年9月の前年同月比1.6%増から10月の同1.8%増、11月の同2.9%増と勢いを取り戻してきました。

【豪州の雇用者数と小売売上高】



(注) データは雇用者数が2015年1月～2017年12月。雇用者数はトレンド値。小売売上高は2015年1月～2017年11月。
(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 金融政策は中立を維持へ 景気は堅調だが、物価が目標に未達

- 消費者物価上昇率は、豪州準備銀行（RBA）の目標レンジである+2%～+3%の下限を下回った状態が続いています。直近17年7-9月期も、前年同期比+1.8%でした。
- しかし、RBAは、①企業部門の好調が家計部門に波及するにつれて、経済成長率は加速する、②物価上昇率もRBAの目標レンジに向かって緩やかに高まる、との見方を堅持しています。今後も、RBAは中立の政策スタンスを維持すると予想されます。

今後の展開 豪ドルは堅調な展開へ

- 豪ドルの対円相場は、下値を切り上げる展開となっています。豪州の景気が堅調に推移していること、鉄鉱石等の資源価格が持ち直してきたこと、金融政策がRBAの中立姿勢維持に対して、日銀は緩和姿勢継続の見通しであること、等を踏まえると、今後も堅調な展開が予想されます。

【豪ドル円レートと鉄鉱石価格】



(注) データは鉄鉱石価格が2015年12月31日～2018年1月19日。為替が2015年12月31日～2018年1月23日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2017年12月18日 2018年の豪州経済および豪ドルの見通し
2017年12月 6日 豪州の金融政策は15会合連続の据え置き（2017年12月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。